



木村大作監督から撮影所に呼び出され、「お前、やるのかやらないか。今、言え！」と迫られ、「はい、やります」「よし、決まった。よろしく。」と。何だかよくわかりません(笑)。山のロケと聞いていたくらいで、何もわからないまま出演が決まりました。

2次ロケから参加しましたが、山に入ってから、まさに修行でした。とまどったのは山の歩き方がゆっくりで、山はスローライフなんなんだと。人生観が変わりました。今、振り返るとひたすら歩いていた時が、何て幸せな時間だったんだろうかと思います。

長期間の山小屋での共同生活で、肉体的、精神的に追い込まれても、浅野さんや香川さんの存在

が大きかったと思います。お二人ともジョークを忘れないというか。人間・浅野忠信、香川照之を直に感じられたことを幸せに感じました。

僕の役は山口久右衛門という人夫の役で、原作を熟読してきましたが、実際は現場で出てきた感情が一番大事でした。浅野さんら東京から来た測量隊の人と、最初は距離感があるんだけど、同じ目的に向かう人間として隔てがなくなり、誰一人賭けてはいけないという意識が生まれてきた。それは実際の柴崎たちも、同じだったような気がします。

蟹江一平 かにえいっぺい

1976年6月、東京生まれ。1998年青年座入団。俳優・蟹江敬三氏の長男。出演作品、テレビ＝NHK連続テレビ小説「どんど晴れ」、テレビ東京「壬生義士伝」等。映画＝「東京タワー～オカンとボクと、時々、オトン」「陽はまた昇る」「赤い月」等。舞台＝「蛇」「評決」「その河をこえて、五月」、「鷹作・桜の森の満開の下」等。